

カキ炭疽病の発病枝及び果実の徹底除去による発病軽減効果

カキ炭疽病は最も被害の大きい病害であり、ここ数年多発傾向にある。炭疽病は園地内で発病した新梢や徒長枝から次々と果実に感染し、園地内で蔓延するため薬剤防除でも抑えることが困難となる。このためこれら発病枝や果実の徹底除去の有効性を検討した。

品種：富有



園地内から除去(6~9月)

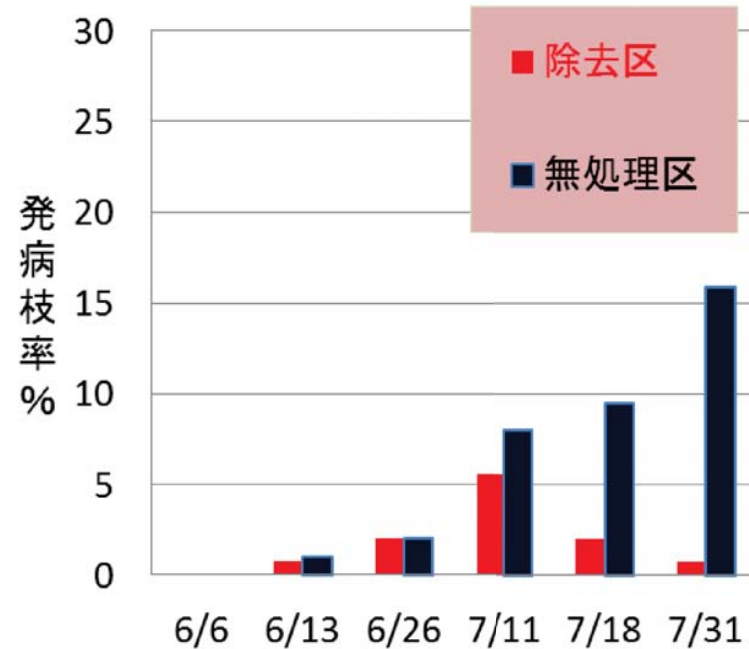


図1 枝発病に対する効果

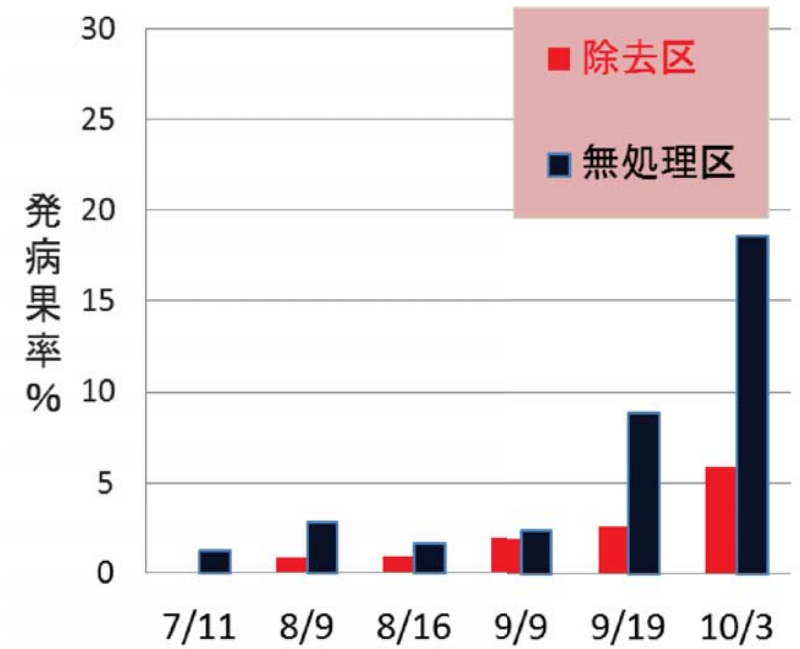


図2 果実発病に対する効果

1. 発病枝の発病初期(5月下旬頃)からの徹底除去の抑制効果は高い。
2. さらに、発病枝の減少と果実除去により園内(樹内)の菌密度低下が図られ、その後の果実発病も抑えられた。